



コミュニティー・エンゲージメント・プログラム  
International Community Engagement Program  
2007カンボジア  
活動報告会コンサート  
～五嶋みどりと若き演奏家たち～

カンボジアツアー  
活動報告書

大阪公演—2008年6月3日（火）17：30 プレス開場/18：30 開演  
ザ・フェニックスホール  
主催：特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング  
協賛：ザ・フェニックスホール ニッセイ同和損保

東京公演—2008年6月4日（水）17：30 プレス開場/18：30 開演  
浜離宮朝日ホール  
主催：特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング

特定非営利活動法人  
ミュージック・シェアリング

## 目次

コミュニティー・エンゲージメント・プログラム概要	・・・ 2
ツアー・スケジュール	・・・ 3
企画参加アーティスト	・・・ 5
訪問先での活動内容	・・・ 6
訪問先での演奏曲目	・・・ 22
別紙 カンボジア地図	

写真：小田哲明

## コミュニティー・エンゲージメント・プログラム 概要

理事長の五嶋みどりが提唱するコミュニティー・エンゲージメント（Community Engagement）とは、アウトリーチ活動をさらに推し進めたもので、“提供者・受容者”という立場を越え、関わる人間すべてが積極的に参加し協力し合うことにより、人と社会・地域の結びつきを強め、お互いの意識や知識を高め合っていく活動を意味します。

音楽の分野では、演奏家と社会が感動を共有し、音楽の素晴らしさを分かち合う活動となります。

2006年より始まったミュージック・シェアリングのコミュニティー・エンゲージメント・プログラムでは、アジアの発展途上国を訪れ、学校・子ども病院・児童施設などに生演奏を届けることで、普段西洋音楽に触れる機会の少ない子どもたちが知らない世界を体感し、自身の視野を広げ、明日への夢を抱くきっかけ作りを提供しています。

同時に若手演奏家の社会貢献活動の場としての側面も持ち、オーディションにより選ばれた若手演奏家3名が五嶋みどりと共に音楽における社会貢献活動とはどのようなことなのか、実体験を通じて認識していきます。

2006年のベトナム訪問に続き、昨年12月にはカンボジア各地の学校・施設を訪問し、音楽を通じた国際交流を図りました。

主 催：特定非営利活動法人ミュージック・シェアリング  
協 賛：キックマン株式会社 三井石油開発株式会社 全日本空輸株式会社 タイ国際航空  
助 成：独立行政法人国際交流基金  
後 援：在カンボジア日本国大使館  
特別協力：特定非営利活動法人 JHP・学校をつくる会  
協 力：カンボジア王国教育・青年・スポーツ省、同国文化芸術省、  
特定非営利活動法人 Friends Without A Border  
漆原隆一、漆原恭子、ショファイユの幼きイエズス修道会 他

## ツアー・スケジュール

1 2月19日 (水)	10:45	成田発 (TG641 便)
	18:30	バンコク発 (TG698 便)
	19:45	プノンペン着
	21:00	ミーティング
1 2月20日 (木)	8:00	JHP・プノンペン事務所訪問
	9:00	王立芸術大学会議室にてリハーサル
	15:00	王立博物館見学
1 2月21日 (金)	7:00	コンポンチャム県へ移動
	15:00	チュレイタソー小学校到着
	16:00	訪問コンサート①チュレイタソー小学校
1 2月22日 (土)	7:00	ベンカック中学校到着
	8:00	訪問コンサート②ベンカック中学校
	9:30	コンポンチャム県 TTC* 到着
	10:00	訪問コンサート③コンポンチャム県 TTC*
	12:30	クオルサートゥマイ聾啞学校着
	13:30	訪問コンサート④クオルサートゥマイ聾啞学校
	15:00	プノン・プロス観光 その後、プノンペン市へ移動
1 2月23日 (日)	8:00	CDCC 到着
	9:00	訪問コンサート⑤CDCC**
	10:00	CDCC**施設見学
	12:00	CJCC***へ移動
	12:30	会場にてリハーサル
	14:00	CJCC コンサート
	16:00	トゥール・スレン博物館見学
	17:00	ごみ山の見学
1 2月24日 (月)	7:30	サクラクバルチュロイ小学校到着
	8:30	訪問コンサート⑥サクラクバルチュロイ小学校
	10:00	キエンクリャンセンター到着
	10:30	訪問コンサート⑦キエンクリャンセンター
	12:00	ホテルにて練習、各自自由
	16:00	在カンボジア日本国大使公邸へ移動
18:30	在カンボジア日本国大使公邸コンサート	

12月25日(火) 7:30 コラップムオイ小学校到着  
8:30 コラップムオイ小学校音楽棟贈呈式出席  
9:30 訪問コンサート⑧コラップムオイ小学校  
14:00 王立芸術大学ホールへ移動  
15:00 王立芸術大学ホールコンサート  
17:00 JHP プノンペン事務所長 馬様よりレクチャー受講

12月26日(水) 8:00 コンポンスプー県へ移動  
9:00 アキャモヘイセイ小学校到着  
10:00 訪問コンサート⑨アキャモヘイセイ小学校  
コンポンスプー県 TTC\*移動中、古都ウドンの観光  
13:30 コンポンスプー県 TTC\*到着  
14:30 訪問コンサート⑩コンポンスプー県 TTC  
16:00 プノンペン国際空港へ移動  
18:00 プノンペン発 (FT825 便)  
18:40 シェムリアップ着  
19:30 スバエク・トーイ (伝統的な影絵芝居) 鑑賞

12月27日(木) 5:30 アンコールワット見学  
8:00 アンコール小児病院到着  
9:00 訪問コンサート⑪アンコール小児病院  
13:30 プノム・クラオム子どもセンター到着  
14:30 訪問コンサート⑫プノム・クラオム子どもセンター  
16:00 シェムリアップ国際空港へ移動  
19:35 シェムリアップ発 (TG640 便)

12月28日(金) 6:15 成田着

\* TTC=Teacher Training College  
\*\* CDCC=Cambodia Dump Children Committee  
\*\*\* CJCC=カンボジア日本人材開発センター

#### 宿泊先

12月19日、20日 Goldiana Hotel  
12月21日 Phnom Pros Hotel  
12月22日～25日 Goldiana Hotel  
12月26日 Steung Siemreap Hotel

## 参加アーティスト

**五嶋みどり** ヲヴァイオリン  
ミュージック・シェアリング理事長

**コルビニアン・アルテンベルガー** (Korbinian Altenberger) ヲヴァイオリン  
ドイツ出身。ニューイングランド音楽院にてアーティスト・ディプロマを取得。アメリカ、ヨーロッパで数々のコンクールに優勝・入賞。アメリカ、日本、南アフリカ、ニュージーランド、ヨーロッパにて、ソリストとして、またコンサートマスターとして演奏活動を行う。昨年より南カリフォルニア大学に在籍。

**村田 恵子** ヲヴィオラ  
兵庫県出身。4歳よりヴァイオリンを始め、15歳でヴィオラに転向。第4回日本アンサンブルコンクールで最優秀演奏者賞を受賞。第7回別府アルゲリッチ音楽祭でユーリ・バシメット氏の公開マスタークラスを受ける。JT主催「JTが育てるアンサンブルシリーズ」に出演。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校を経て、現在同大学音楽学部4年在学中。

**辻本 玲** ヲチェロ  
11歳までアメリカ・フィラデルフィアで過ごし、7歳よりチェロを始める。2002年第5回ピバホールチェロコンクール特別賞受賞、2003年第72回日本音楽コンクール第2位、聴衆賞受賞。東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業し、全国各地でオーケストラ共演、リサイタルや室内楽コンサートに出演している。第1回ベトナムでの活動に続き、コミュニティー・エンゲージメント・プログラムには2回目の参加。

## 訪問先での活動内容

### 訪問コンサート①

訪問先：チュレイタソー小学校（コンボンチャム）

訪問日：12月21日（金）16：00

会場：校庭

参加者：約150名



コンボンチャム県はチャム族（イスラム教徒）の多い地区で、プノンペンから車で3時間ほどのところにある。

チュレイタソー小学校はコンボンチャムの中心部から、さらに車で1時間ほどの場所に建つ。移動中、車がパンクするというアクシデントに見舞われながらも、なんとか学校へ到着。

チュレイタソー小学校は全校生徒340人に対し、教室が6つある校舎1棟のみ。授業は2部制で実施されている。

ここでの訪問コンサートは校庭にステージを設置し、テントを張って行われた。

打ち合わせ段階で屋内での実施を打診したところ、学校側もなんとか教室で開催ができないかと、窓やドアをすべて取り外すなどして検討してくれた。しかし、教室での実施となると限られた児童しか鑑賞できず、さらに照明の問題もあったため、全校児童に聴かせたいという校長先生の強い要望に応え、校庭でのコンサートに踏み切った。

コンサートは国歌斉唱、校長、来賓挨拶に続き、児童の歌とピアノが披露された。足踏みオルガンで伴奏をする男子児童の真剣なまなざしが印象的だった。

カルテットの演奏をより近い場所で聴いてもらえるよう配慮し、設置されたステージは使用せず校庭に立って行われた。演奏家の中には、屋外での演奏に戸惑った者もあり、初めての訪問コンサートだったことも手伝って多少硬さが見られた。

演奏の合間には、カルテットのメンバー紹介や楽器・曲についてのお話が盛り込まれた。メンバー紹介の際には、通訳をしてくれた JHP スタッフ、カナリンさんの計らいにより、子どもたちにカルテットメンバー一人一人の名前を発音してもらった場面があり、名前を呼ばれたメンバーたちの頬がほころぶ一幕も。(以後の訪問先でも同じ場面が見られた)

子どもたちは演奏中の動きに笑い声をあげたり、おしゃべりをしたりしており、自然な反応を見せてくれた。近所の大人たちも集まり、ステージ後方からのぞき込むように鑑賞していた。

### 訪問コンサート②

ベンカック中学校 (コンボンチャム)

訪問日：12月22日(土) 8:00

会場：旧校舎事務室

参加者：約200名



学校に着くと、すでに生徒たちが正門に並び、私たちの訪問を歓迎してくれた。演奏会場となった旧校舎は、ポル・ポト時代からのもので、壁には砲弾の跡が残り、歴史の重さを感じるものであった。新校舎だけでは入りきらない子どもたちが、旧校舎を使って授業をしている。廊下を通ると、授業中にも関わらず全員が手を合わせて挨拶してくれた。

コンサートは、国歌斉唱、校長、来賓挨拶の後、生徒の音楽劇があり、その後カルテットの演奏となった。

生徒の音楽劇では、伝統楽器と歌にあわせ、猿に扮した生徒が動き回るコミカルなもので、会場が笑い声に包まれた。



カルテットは、教室いっぱいに入った生徒たちの後方まで見えるよう、チェロ以外は立って演奏。さらに、ヴァイオリン2台でのトルコ行進曲は、子どもたちの列の中に入り、後方に座っていた生徒たちの目の前でも演奏する機会を作った。

子どもたちの年齢が高いこと、教室内で実施されたことで、1回目の訪問コンサート時よりも落ち着いた雰囲気でのコンサートとなった。

こちらの学校でも演奏中の動きを見て笑い声があがったものの、子どもたちの集中力がとぎれることなく、最後まで楽器を食い入るように見つめてくれた。

また、教室後方の入り口には、中に入れない大人たちがつめかけており、のぞきこむ姿もあった。

演奏終了後には、子どもたちの作った工作（豆を貼り付けて絵を描いたもの）などのプレゼント贈呈があり、お礼の言葉とともにカルテットメンバーへ贈られた。

### 訪問コンサート③

コンボンチャム県 TTC（コンボンチャム）

訪問日：12月22日（土）10:00

会場：音楽棟2階講堂

参加者：約150名



TTCとは、Teacher Training Collegeの略で、小学校教員の養成学校である。カンボジアには24県のうち18県にTTCがあり、8件にRTTC（中学校教員養成学校）があるが、ここコンボンチャム県には両方が隣接して建っている。会場は音楽棟の2階講堂。生徒によるピアノ演奏では、カンボジアの民謡以外に「ふるさと」などの日本の曲メドレーが披露された。

カルテットの1曲が終わるごとに記念品のプレゼントや手作りのレイを首にかけてくれ

るなどの歓迎ぶり。初めは少し戸惑った様子のカルテットメンバーだったが、次第に慣れ、表情が和らいだ。

レイを首にかけてままでは演奏ができず、もらってもすぐにはずさなくてはならないことを気遣い、譜面台にかけて演奏するなどしていた。

教員養成学校だけあって、楽器や曲の解説の際にメモを取る生徒が目立った。また、楽器に触れるコーナーでは、演奏家へしきりに質問を投げかける生徒が見受けられた。

#### 訪問コンサート④

クオルサートゥマイ聾啞学校（コンボンチャム）

訪問日：12月22日（土）13：30

会 場：音楽室兼食堂

参加者：約150名



TTC と RTTC に挟まれたような形に建つクオルサートゥマイ聾啞学校。2002年に設立され、フランスの NGO が支援している施設。現在6歳から14歳の視覚障害児85名と聴覚障害児80名が学んでおり、自宅から通えない100名ほどの子どもが施設内で寮生活を送っている。こちらの学校では、教育省規定のカリキュラムのほかに、英会話と伝統楽器の指導もしている。

こちらの学校では、食堂兼音楽室が会場となったが、一番広いこの部屋でも100名ほどの収容人数だったので、外の廊下から窓越しに覗き込む子どもも大勢いた。

コンサートの初めに、音楽教諭と子どもたちによる伝統楽器の演奏が披露された。

音楽担当の先生は伝統音楽だけでなく西洋音楽も好んで聴くと話し、この日もベートーヴェンの CD を持参していた。（この先生自身も視覚障害を持っている）

コンサートでは、聴覚障害児のために手話による通訳がついた。

カルテットメンバーの名前を紹介した際には、アルファベットひとつずつを手話で確認

する場面も見られ、名前を覚えると満足そうにうなずいていた。  
楽器に触れるコーナーは、演奏家と一緒に弓を持って音をだしてみたり、音を出している時の振動を楽器に触れて確かめたりと、子どもにあったやり方で実施された。特に、昨年のコミュニティー・エンゲージメント・プログラムにも参加した経験を持つチェロの辻本さんは、積極的に子どもたちと関わっていた。

こちらの学校には電話がなく、携帯電話をもっている先生が一人のみという状況のため、コンサート前の細かなやりとりが十分でなく、生徒の演奏が予想以上に長くなってしまったということがあった。

### 訪問コンサート⑤

CDCC (プノンペン)

訪問日：12月23日(日) 9:00～

会場：食堂

参加者：約150名



CDCC とは Cambodia Dump Children Committee の略。イギリスの”Bridge Across Boarder”が支援している施設で、「ごみ山の子どもたち」と呼ばれる子どものための孤児院である。

「ごみ山の子どもたち」と呼ばれる所以は、プノンペン郊外にあるごみ置き場（ごみがいくつもの山になっており、驚くほどの数の蠅が飛び交い、変色した水が流れていたり、ごみが自然発火してくすぶっている）で寝泊りをし、ごみの中からお金になるものを拾い、それを売って生活しているからである。

CDCC には6歳から17歳までの92名が収容されている。この中にはごみ山から救い出された子どものほかに、ストリートチルドレンだった子どもや、親から虐待を受けていた子どもも含まれる。

今回のコンサートでは、JHP が運営している孤児院 CCH = Center for Children to Happiness の子どもたちを CDCC へ招き、合同開催とした。

CCH の子どもも大半が「ごみ山の子どもたち」で、ほとんどが兄弟姉妹である。

CCH は、勉強する意欲の高い子どもに教育の機会を与えるため、2002年に設立され、5歳から18歳の49名が収容されている。子どもたちは午前中に近隣の公立学校に通う。

院の基本方針として（CDCC も同様）、子どもたちの自立を促すようにしており、具体的な将来の夢を設定させるほか、毎週日曜日には子どもたちによるミーティングが開かれ、自分の夢を語り合い、お互いに助言しあう時間を設けている。

CDCC へ入ると、奥にいた子どもたちがどんどん集まってきて、一行を囲み歓迎してくれた。みどりに抱きついてしばらく離れない子どももいた。子どもたちはとても人懐っこく、特に幼い子どもは甘えん坊で、年齢の高い子どもたちは大変礼儀正しい。

このコンサートでは、まず、子どもたちによるアブサラダンス、歌、ソーラン節が披露され、音楽やダンスが大好きだという気持ちに溢れた快活な表情を見せてくれた。

ダンス指導は、精神の安定や集中力を高める効果を期待し、特に虐待を受けた子どもには積極的に実施しているとのこと。

カルテットの演奏時には、ヴァイオリンを弾く姿を見ながら隣の子どもとささやきあったり、笑い声をあげたりしていた。会場となった食堂は、屋根があるものの半野外のスペースのため、音響的には決して良い環境ではないため、中には集中力がとぎれてしまう子どももいた。

しかし、楽器に触れるコーナーでは、人懐っこさと明るさで、積極的に体験をしてくれた。このコーナーでは、尻込みしたり遠慮したりする子どもが多かった中、このツアーの中では特に積極的な参加が見られた。

ヴァイオリンを習いたいと言いはじめた子どもには、日曜日にアンコール・ユース・オーケストラ（詳細後述）の練習があるため、そちらへ参加してはどうかという提案もあった。しかし日曜日は将来のためにお金を稼がなくてはならず、習い事よりも仕事を取らざるを得ない現実があるとのことであった。

今回の訪問が子どもの心に夢を与え、いつかヴァイオリンを習う日がくることを願ってやまない。

コンサート終了後には、CDCC の施設内を見学させていただき、子どもたちの生活する様子を見たり、子どもと触れ合う機会を設けた。



## CJCC コンサート

公演日：12月23日（日）14：00～

会場：CJCC 多目的ホール

参加者：約400名

曲目：モーツァルト 弦楽四重奏曲ニ短調 K.421  
メンデルスゾーン 弦楽四重奏曲第3番ニ長調 Op.44 No.1  
(アンコールとして)  
チャイコフスキー 組曲「くるみ割り人形」より  
マーチ、トレパーク、葦笛の踊り

CJCC（カンボジア日本人材開発センター）はプノンペン大学の敷地内にある多目的ホール。こちらでのコンサートは在カンボジア日本国大使館、CJCC との共催で実現した。孤児院の子どもたち、一般市民、大使館の関係者、JHP 関係者などを招待し、ホールは満席となった。

チケット配布は大使館にて行われたが、配布開始早々になくなるという盛況ぶりだったとのこと。

会場となったホールは体育館のようなところ。当初ステージ上での演奏を考えていたが、音響の都合上、ステージではなくフロアで演奏することになった。そのため、後ろに座った人々にとっては演奏している様子が見えづらい状況となってしまった。

また、このコンサートのスタイルに関して、演奏家とスタッフに認識のずれがあったことがわかった。（演奏家は通常のコンサートとして考えていたが、スタッフ、大使館関係者は学校訪問時のような形でお話を挟みながらのコンサートと考えていた。結局、通常のコンサート形式で実施された。）誰のための、どんなコンサートなのか、あらかじめ明確にしておく必要がある。こちらが考えているより、よりコミュニケーションが必要であると感じた。



## 訪問コンサート⑥

サクラクバルチュロイ小学校（プノンペン）

訪問日：12月24日（月）8：30～

会場：音楽室

参加者：約100名



こちらの音楽担当の先生は日本への短期留学経験があり、カンボジアの民謡以外の曲も積極的に授業に取り入れているとのこと。通常カンボジアでは自国の音楽が重視される傾向が強く、他国の文化に接する機会が少ないのが現状である。

学校へ到着すると、子どもたちがコンサートに向けて歌とピアノの練習をしていた。会場となる音楽室には備え付けの机と椅子があったが、少しでも多くの子どもの鑑賞してもらえよう、子どもたちと一緒に教室の外へ運び出した。がらんとした音楽室を見渡すと、日本の学校の音楽室と似たように作曲家の肖像画が年代順に掲示されており、音楽担当の関心の高さをうかがい知ることができた。

コンサートの初めには、国歌斉唱があり、その後子どもたちの歌とピアノ演奏が続いた。これまで訪問してきた学校とは違い、2つのパートに分け合奏をするほどの腕前。

カルテットの演奏を聴く子どもたちは、とても反応が良く、熱心に耳を傾けていた。特に曲・作曲家についてのお話の際に、掲示してある肖像画を指し示したことで、子どもたちの興味が高まったようだ。

また、演奏会場となった音楽室がそれほど大きな部屋ではなかったことから、後方の子どもも演奏の様子がよく見え、最後まで集中して聴いてくれた。

ヴァイオリン2台でのトルコ行進曲が終わった後、楽器に触れるコーナーになったが、後ろのほうからピアノでトルコ行進曲を弾く音が聴こえる。聞けば、音楽の先生がさりげなく生徒たちに教えたのだと言う。

そのことを演奏家に話し、時間があれば子どもたちと一緒にトルコ行進曲を弾く機会を作れないかと提案したところ、コンサートの最後を実現することとなった。指揮者役を買って出る児童もいて、大盛況のうちにコンサートが終了した。

## 訪問コンサート⑦

キエンクリャンセンター（プノンペン）

訪問日：12月24日（月）10：30～

会場：クリニック横、ガレージのような場所

参加者：約50名

キエンクリャンセンターは、地雷で体の一部を失った人や、奇形で生まれてきた子どものためのリハビリ施設。子どもだけでなく、大人の患者も多い。

演奏会場となったクリニックには、時間になっても人がまばらで、コンサートが始められるのかと心配になる一幕もあったが、予定会場とは別の場所に変更となっていた。屋根があるものの、屋外でガレージのようなところ。

クリニックよりも音響の面で残念なところがあったが、多くの観客に見てもらえた。

ここではセンター関係者が司会をしてくれ、歓迎の言葉をいただいた。

観客には子どもを抱いた母親や父親、リハビリに来ていた大人が多く、学校帰りとおぼしき子どもたちが数名、後ろのほうから恐る恐る見ているという状況だった。子どもたちに「前の方へ行って見たらどう？」と声をかけてみたが、見慣れない楽器や音に積極的とはいかなかった。楽器に触れるコーナーでも、ほんの少し触っただけで満足の様子であった。

コンサート終了後には、センター内の見学をさせてもらい、展示された様々な義足や歩行訓練のための施設などを見て回った。演奏家が子どもとボールを蹴り合う場面も見られた。





### 大使公邸コンサート

公演日：12月24日（月）18：30～

会場：大使公邸玄関ホール

参加者：約50名

曲目：ドヴォルザーク 2台のヴァイオリンと1台のヴィオラのための  
テルツェット

メンデルスゾーン 弦楽四重奏曲第3番ニ長調 作品44-1

（アンコールとして）

チャイコフスキー 組曲「くるみ割り人形」より マーチ、トレパーク

主に王族や政府要人を招いてのコンサート。当初40分程度を予定していたが、1時間近くの演奏となった。演奏終了後、食事と懇談。

### 訪問コンサート⑧

コラップ 1（ムオイ）小学校（プノンペン）

訪問日：12月25日（火）音楽棟贈呈式 8：30～

記念コンサート 9：30～

会場：音楽棟2階



学校に到着すると、運動会のような賑わい。贈呈式で演奏するマーチングバンドのメンバーがリハーサルをしていた。

音楽棟贈呈式には来賓として出席。1棟の校舎の完成に、非常に多くの人が喜びを感じていることが伝わってきて大変新鮮な思いだった。音楽棟はマーチングバンドの練習場として建設されたのだという。

贈呈式は、国歌斉唱、僧侶の説教、そして校舎建設のドナーとなった人々の挨拶が続き、コラップムオイ小学校やワットプノンさくらマーチングバンドのメンバーによるマーチング演奏が披露された。式の最後に、完成した音楽棟内でカルテットの演奏となり、こけら落としのような形となった。会場となった音楽棟は、すぐ横に国道が走っており、



車のクラクションや騒音が気になったものの、後ろまで見えるように立って演奏したり、客席の間に入り人々のより近くで演奏する機会を設けた。

当初、マーチングバンドの生徒たちが観客の予定だったが、教育省の役人や校舎建設のドナーなど、来賓が客席のほとんどを占めており、子どもたちは後ろのほうで一つの椅子に二人で掛けたり、出入り口からのぞきこむような形であった。観客に大人が多かったものの、学校訪問で実施するレクチャーを含めたコンサートの形式で演奏し、校舎建設に関わった日本人の方に当方の活動を体感してもらう機会ができたことは大変ありがたいことであった。

### 王立芸術大学コンサート

公演日：12月25日（火）15：00～

会場：王立芸術大学ホール

演奏：カルテット

アンコール・ユース・オーケストラ

ワットプノンさくらマーチングバンド

観客：王立芸術大学附属小学校、中学校の生徒

参加者：約500名

\*オーケストラ、マーチングの子ども以外に観客として王立芸術大学附属小中学校の児童・生徒



昨年のICEPでハノイ音楽院の学生と共演しながら各学校・施設を訪問したように、カンボジアでも王立芸術大学の学生との共演を予定していたが、訪問ぎりぎりまで話がまとまらず、断念することとなった。というのも、学生が演奏活動を通して社会と関わるとい考え方がまるで受け入れられず、学生は人前で演奏できるレベルではないので、芸大出身の演奏家（プロ）との共演にしてほしいという要望や、プロの演奏家なので報酬が必要、たとえ演奏するのが学生であっても演奏料が発生するなど、こちらの意図していることと芸大側の考えが最後まで平行線だったことが原因である。

「王立芸術大学の学生との共演」、この代案として、アンコール・ユース・オーケスト

ラ、ワットプノンさくらマーチングバンドとの演奏交換をすることとなった。ここでは、カンボジアの子どもたちにおける西洋音楽との関わり方を見ることができ、貴重な体験となった。

カルテットは、学校訪問時のプログラムを演奏。大きなホールのため、楽器に触れるコーナーは省かれたが、お話を交えて、曲や楽器の解説も行った。また、当初芸大の学生と合奏する予定だった“*Apsara*”（シハヌーク前国王作曲）を最後に演奏した。ホールとはいっても音響が非常に悪く、さらには2箇所ある出入り口から観客が始終出入りを繰り返しており、ツアー中一番落ち着かない演奏会となってしまった。また、カンボジアの子どもたちに親しまれている曲を編曲していただくよう芸大の教授に頼んだ“*Apsara*”だったが、観客の反応が今ひとつであった。

アンコール・ユース・オーケストラは、以前カンボジアでシニアボランティアをしていた日本人とタイ・ユース・オーケストラと交流を持つ群馬ジュニアオーケストラの指導者が設立を支援。楽器は群馬ジュニアオーケストラなどからの寄付で集められたもの。王立芸術大学の先生（コンサート時に指揮をしていた方）がご夫婦で指導をしており、オーケストラメンバーは芸大関係者の子どもが多いとのこと。オーケストラといってもほとんどがヴァイオリン。チェロは2台でフルートを演奏していたのは1名のみだった。キーボード伴奏に合わせてユニゾンで演奏するスタイル。5歳から18歳くらいまでの子ども30名ほどがステージ上にずらりと並び、カンボジアの民謡を披露した。

ワットプノンさくらマーチングバンドは、JHP がサポートするカンボジア初、唯一のマーチングバンドであり、登録メンバーは150名。楽器は日本全国から寄せられたものを使用している。様々なイベントに参加し知名度もあるため、マーチングバンドの演奏時には、観客が大変盛り上げる様子が見られた。



**訪問コンサート⑨**アキャモヘイセイ小学校（コンボンスプー）

訪問日：12月26日（水）10：00～

会 場：校庭

参加者：約300名



コンボンスプー県は、プノンペン市から車で1時間弱の場所にある。移動途中、トンレサップ川沿いに建てられた不法占拠の小屋を取り払う立ち退き現場にぶつかり、大渋滞に巻き込まれてしまった。干支のほか、動物の像が並ぶユニークな校庭には、立派なステージとテントが建てられ、大勢の子どもたちが遅れて到着した一行を歓迎してくれた。JHP の音楽コンクールで優勝した経験を持つこちらの学校。より多くの子どもの演奏を聴かせたいという校長先生の要望から校庭での開催となった。

国歌斉唱の後、校長先生、来賓の挨拶と続き、児童によるアプサラダンスとピアノによる演奏が披露された。カルテットの演奏時には、少しでも近くで見ようとする子どもたちがステージの真下や脇にまで押し寄せた。屋外での演奏のためマイクを通して聞きづらい状況にもかかわらず、なんとかして聴こうとする子どもたちの様子に心を打たれた。楽器に触れるコーナーでは、目の前で演奏されるヴァイオリンの音に、目を瞑って耳を傾ける少女や、楽器に触り振動しているの確かめた後、友達を呼んで来て、友達にも経験させようとしている男子児童などが見受けられた。



訪問コンサート⑩コンポンスプー県 TTC (コンポンスプー)

訪問日：12月26日(水) 14:30～

会場：2階講堂

参加者：約200名



アキャモヘイセイ小学校からプノンペン国際空港方面へ。カンボジアの古都ウドンの様子を見ながらさらに進むと、車窓に広がるのは広大な平原。舗装されていない道を1時間ほど走る。

コンポンスプー県の教育局と同じ敷地の中にあるこの学校。付属小学校も併設されており、控え室にいる演奏家たちを好奇心いっぱいの様子でのぞいていた。当初、付属小学校の児童にもコンサートを聴いてもらえるよう、2回開催を検討していたが、都合上1回となった。

TTCは2年制の学校で、20歳代の生徒を中心に200名ほどが学んでいる。コンサートは生徒によるピアノの演奏と、音楽の先生による二胡のような伝統楽器の演奏ではじまった。ピアノでも伝統楽器でも「ふるさと」が演奏された。その後カルテットメンバーは伝統楽器を体験させていただいた。伝統楽器の演奏を聴く機会はこれまで度々あったが、実際に体験することはなかったため、興味深い思い出となった。

(その後、市場で同じ楽器を見かけたカルテットメンバーが、お土産として購入しようか迷うほど)

訪問コンサート⑩アンコール小児病院（シェムリアップ）

訪問日：12月27日（木）9：00～

会 場：外来受付前の玄関ホール

参加者：約100名



病院の外来、治療に来ている人が多い中での演奏に、耳を傾けてもらえるのかという不安があったが、いざ演奏が始まると、食い入るように聴き入ってくれた。

コンサートが始まった時には、それほど人の多くなかった受付に、どんどん人が集まってくる。病院のスタッフたちも、仕事の合間を縫って演奏を聴いてくれた。

おのおの音楽にあわせて体を揺らすなど、おもしろいように楽しんでいるようだった。中でも母親に抱かれた2、3歳の子どもが、くるみ割り人形の「トレパーク」にあわせて、アプサラダンスのように手を動かしている様子は印象的な光景であった。

このコンサートでも楽器に触れる時間を設け、弦をはじいたり、弓を持ったりと楽しんでもらった。ツアーも終盤になり、カルテットメンバーにも余裕が見られ、積極的な交流ができたのではないかと感じた。

演奏終了後、みどりの提案によって予定にはなかった病院スタッフのためのコンサートも実施された。急遽、会場となった会議室は病院スタッフでいっぱいになった。

治療の合間に駆けつけるドクター、都合上途中で退席しなくてはならないスタッフの方もいらしたが、限られた時間を楽しんでいたようで、皆にっこり笑って会場を後にしていた。

後から聞いたところによると、カンボジアでカルテットを聞く機会がめったになく、「きれいな音だった」と大変喜んでくださったとのこと。

最後に病院内の見学をさせていただき、充実した活動となった。

訪問コンサート⑫ プノム・クラオム子どもセンター（シェムリアップ）

訪問日：12月27日（木）15：00～

会場：プノム・クラオム子どもセンター

参加者：約500名



プノム・クラオム子どもセンターは「ショファイユの幼きイエズス修道会」の日本支部が支援している。

コンサート会場となった、「プノム・クラオム・子どもセンター」は2003年6月に落成。ここでは、主に子どもの栄養補給と保健衛生を中心とした援助を実施。2005年からは、貧しさゆえに学校へ行けない（行かない）子どものためにプレスクールをはじめ、識字教育を中心に幼稚園のような役割を果たしている。

コンサートには、普段こちらの施設へ来ている子どものほか、周辺の小学校へ通う児童も参加。大広間に500人近い子どもがカルテットをぐるりと囲む形で座った。

参加した子どもは未就学児で幼いため、内容が難しすぎないか懸念されたが、演奏する様子を真似するなど、素直な反応を見せてくれた。

また、カルテットが弾くきらきら星にあわせて全員で歌う機会も設けられた。

演奏の終わった後、「質問のある人はいますか」という問いに、ぱっと手をあげた女の子が、「お礼に歌を歌います」とカンボジアの民謡を披露し、会場は和やかな雰囲気になりました。

## 訪問先での演奏曲目

ドヴォルザーク

- ・2台のヴァイオリンと1台のヴィオラのためのテルツェット（三重奏）ハ長調 Op. 74

モーツァルト

- ・弦楽四重奏曲 第15番 ニ短調 K. 421
- ・ピアノ・ソナタ 第11番 イ長調 K. 331（2台のヴァイオリンのためのデュオ編曲版）  
3楽章トルコ風:アレグレット

メンデルスゾーン

- ・弦楽四重奏曲 第3番 二長調 Op. 44 No. 1

チャイコフスキー

- ・組曲「くるみ割り人形」より マーチ、トレパーク、葦笛の踊り

ビゼー

- ・組曲「カルメン」より

上記より、組み合わせて演奏。



特定非営利活動法人 ミュージック・シェアリング

〒101-0065 東京都千代田区西神田 3-3-6 九段オーシャンビル 3 階

TEL:03-3261-1855 FAX:03-3261-1856

E-mail : [musicsharing@dolphin.ocn.ne.jp](mailto:musicsharing@dolphin.ocn.ne.jp) URL:<http://www.musicsharing.jp/>